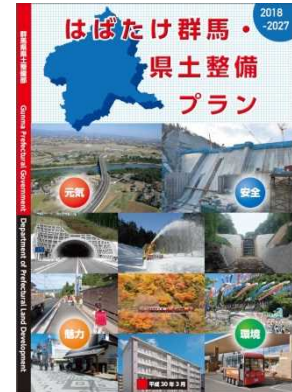


# はばたけ群馬・県土整備プラン2018-2027

群馬県県土整備部建設企画課 主幹 宮下邦彦

## 1. はばたけ群馬・県土整備プラン2018-2027とは

「はばたけ群馬・県土整備プラン2018-2027（以下「県土整備プラン」という。）は、平成30年度からの10年間において、ぐんまが未来に向けて大きくはばたいていくために、社会資本の整備や維持管理を「どのような考え方で、どのように進めていくか」を示した群馬県の県土整備分野の最上位計画です。



## 2. 計画策定の背景

「はばたけ群馬・県土整備プラン2013-2022（平成25年3月策定）」の策定から、概ね5年が経過し、この間、平成28年度を初年度とする「第15次群馬県総合計画」や「群馬県版総合戦略」の策定、東毛広域幹線道路や国道17号上武道路などの全線開通、北陸新幹線や圏央道の延伸などの県内外の社会資本整備の進捗が図られました。

一方で、本県の10年後の姿を展望すると、「人口減少と少子化の進展による公共交通の衰退」「切迫する巨大災害」「建設産業の担い手の減少」など、社会資本整備を取り巻く状況は大きく変化していくことが想定されています。こうした状況の変化を踏まえ、新たな課題に対応しつつ、「魅力あふれる群馬」を実現するため、戦略の見直しが必要となったことから、新たな県土整備プランを策定しました。

## 3. 見直しのポイント

これまで、県土整備プランに基づき、県内の道路ネットワークの整備を計画的かつ重点的に推進してきた結果、自動車を「移動手段」とする基盤が整いつつあります。その一方で、県民の移動手段に占める公共交通の利用分担率は年々減少してきており、人口減少と少子化が進む中、このままでは、主な公共交通利用者である通勤・通学利用者の減少により、採算の取れない鉄道やバスなどの減便・撤退が進み、「自動車を使えない県民」の移動手段がなくなっていくことが懸念されています。

そこで、新たな県土整備プランにおいては、「自動車以外の移動手段も選択できる社会」を実現するため、「県民の多様な移動手段の確保」に向けた取組を重点的に推進していくこととしました。

#### 4. 具体的な取組

「自然と共生し、未来に向けて、持続的にはばたける地域」を目指す将来像とし、「元気・安全・魅力・環境」の4つの基本目標に応じた11の主要政策を展開していきます。

##### 4. 1 基本目標1：元気 もっと、県土に活力を

地域間競争が更に激しさを増す中、生産性の高い、活力のあるぐんまの経済活動を支えるための「道路ネットワークの整備」や、本県が取り組む主要プロジェクトの整備を促進する社会資本整備を推進します。

##### 4. 2 基本目標2：安全 もっと、暮らしに安全・安心を

頻発・激甚化する気象災害、切迫する巨大地震への対応など、「災害に強い県土づくり」とともに、「安心して生活・移動できる環境づくり」に取り組めます。また、県民の暮らしや社会経済活動を支える「社会資本の戦略的な維持管理・更新」を推進します。

##### 4. 3 基本目標3：魅力 もっと、県土に魅力を

人口減少と高齢化が同時に進行する局面でも、都市部から中山間地域に至るまで、誰もが買物や通院など生活に必要なサービスを享受しやすく、安心して豊かな暮らしを持続できるよう、「まちのまとまり」の維持と、それらをつなぐ「多様な移動手段の確保」に取り組み、生活の質の高い魅力ある県土づくりを推進します。

##### 4. 4 基本目標4：環境 もっと、良好な環境を

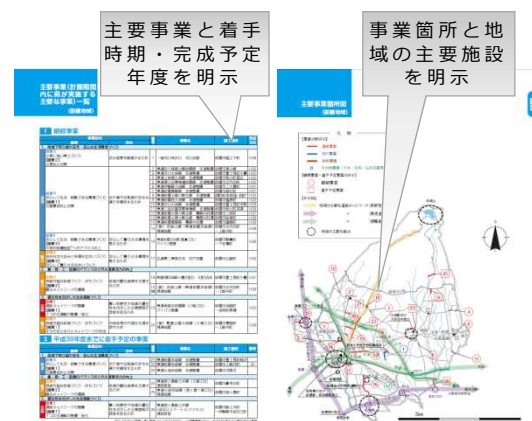
環境への負荷が少なく環境の質が高い、豊かで持続的に発展する環境県群馬を目指すとともに、将来の県民に良好な環境を引き継ぐため「生活環境・自然環境の保全」や「低炭素・循環型社会づくり」を推進します。

#### 5. 社会資本の整備と維持管理の担い手の確保・育成

社会資本の整備と維持管理の担い手であるとともに、地域の安全・安心の守り手として欠くことのできない建設産業の健全な発展に向け、現場の生産性向上や、担い手の安定的かつ持続的な確保・育成を支援します。

#### 6. 主要事業箇所図

計画的な沿道利用や開発などを誘発し、民間投資や企業誘致の促進を図るとともに、建設産業における将来の設備投資や人材確保の基礎的データに活用できるように、県内12地域ごとに、地域課題の解決に向けて、今後10年間に取り組む主要事業と、その着手時期並びに完成予定年度を記載しました。



【主要事業箇所図】